

令和元年6月25日現在

機関番号：34310
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2018
 課題番号：26360054
 研究課題名(和文) 全英女性解放会議におけるジェンダー/人種/階級：「第五要求」形成過程を中心に
 研究課題名(英文) Gender, Race and Class on the formation of 'the fifth demand' of the British Women's Liberation movement
 研究代表者
 山森 亮 (Yamamori, Toru)
 同志社大学・経済学部・教授
 研究者番号：90325994
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：1970年代英国女性解放運動における経済的自立要求の形成過程において「かき消された声」があったことを明らかにし、この忘れられた実践のなかで、人種と階級による制約を乗り越えようとする試み(のうちの一つ)があったことを跡づけることができた。忘れられた歴史を明らかにしたこの成果は、国際学術誌の最優秀論文賞を受賞(The 2014 Basic Income Studies Best Essay Prize)したほか、イギリス、スペイン、スイス、韓国、台湾、日本で招待講演を行うこととなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては第一に、第二波フェミニズム研究のなかで忘れられた重要な史実を明らかにしたこと、第二にこれまでのフェミニスト経済学の歴史を書き直す内容を持つ「草の根の経済思想」を浮き彫りにしたことが挙げられる。

社会的意義としては第一に、近年とみに注目を集めているベーシックインカムという提言が、フェミニズムとどのような関係を持っているかを明らかにしたこと、第二に日本社会との関係では、子ども手当/児童手当をめぐる政治的混乱のなかで、普遍的現金給付の持つ意味やサービス給付/条件付き現金給付との関係について、フェミニズム運動史研究の立場からジェンダーの視点で評価し直すことができたことがあげられる。

研究成果の概要(英文)：This research explored how the demand for an unconditional basic income (UBI) was discussed in the British Women's Liberation Movement (WLM) in the 1970s. A resolution for UBI was passed with a majority vote at the National Women's Liberation Conference in 1977. However, this fact appears not to have been properly recorded in any academic literature. This is slightly surprising because it has been more than a decade since feminist academics started to argue either for or against UBI. The research found that the resolution was raised by working class women in the Claimants Unions Movement. The research recorded and analysed their feminist articulation of the UBI and the unfortunate fate of their resolution along with their intersections with other feminists. It was based mainly on oral historical interviews with ex-claimants women, and supplemented by archival work and theoretical analysis from the feminist economist perspective.

研究分野：社会政策、フェミニスト経済学、オーラルヒストリー

キーワード：オーラルヒストリー 女性解放運動 労働者階級 人種 ジェンダー ベーシックインカム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

英国における第二派フェミニズム運動は、1970年から1978年まで続いた全英女性解放会議 (National Women's Liberation Conference:以下 NWLC) をめぐる動きを中心に語られ、記述されて来た (Rowbotham 1989, 富永 2007)。NWLC が当初より掲げていた四つの要求はつとに有名である。1974年に採択された第五要求は、女性の経済的自立に関するものだが、この第五要求をめぐっては1972年に、後述する応募者の研究によって明らかにされた別の動きがあったが、これまで国内でも英語圏の研究でも、本研究開始時点では、触れられていない状況であった (e.g. Campbell and Coote 1987, Lovenduski and Randall 1993, Malos 1995)。

他方で、研究開始時点までの数年の英国では、従来の第二派フェミニズム運動の歴史を書き換えようとする、興味深い二つの動きがあった。

一つは、白人フェミニストの回想録に基づいた「正史」と、「ブラック」フェミニスト達によるその批判という二項対立を乗り越え、いったい両者の間にどのような交流があり、そこにはどのような可能性と限界があったのかを、丹念に跡づけようとする取り組みである (e.g. Thomlinson 2012)。これは、一方で「人種」や「階級」の存在を等閑視するのではなく、他方でこれらのカテゴリーをキーワード的に使用することで断絶を強調するのではなく、時代の制約のなかで、どのような相互理解が試みられたのかを明らかにしていく作業である。

もう一つは、オーラルヒストリーの手法を用いて、当事者たちの声を記録していく運動である。British Library による 'Sisterhood and After' と題した第二派フェミニズム運動の主要な参加者を網羅しようとした野心的な大規模プロジェクト(以下 SaA)をはじめ、英国各地で同様の取り組みが始まっている。その過程でこれまでは掬い取られてこなかった多様な声が記録されつつあった。

応募者は、本研究以前の研究「福祉権フェミニズムにおけるベーシックインカム要求とケアの社会化要求の関連の研究」(以下「福祉権フェミニズム」研究)を遂行する過程で、イーストロンドンの福祉要求者たちの組合(要求者組合)で活動していた労働者階級の女性達が、1972年マンチェスターで開かれた第3回 NWLC に参加し、ベーシックインカムを「第五要求」として採択するよう動議をだし、否決されたとの証言を複数得ていた。

ところが既述したように、この動きは先行研究では無かったことになっていた。ベーシックインカムに関する学術文献のなかでも無視されてきた理由については Yamamori 2010 にて分析した。そして本研究開始前年の9月よりサバティカルでの英国在住を活かし、フェミニズム研究のなかで忘れられた理由について、取り組む準備作業に着手していたところであった。

また「福祉権フェミニズム」研究に協力して頂いた英国の研究者達から、本研究に本格的に取り組むことを勧められ、また協力を約束して頂いていた。彼女達が勧める理由は、第一に、忘れられた歴史を掘り起こすこと自体の重要性、第二に、忘れられた理由が、1970年代の社会運動に共通する普遍的な制約に基づいており、その分析が普遍性を持ちうること、第三に、1970年代の運動の成果が、金融危機以降の政治変動によって掘り崩されている中で、「経済的自立」を巡る、あり得た「もう一つの歴史」の可能性について丹念に分析することは、現代的な意味を持つという三点に要約できるものであった。このうち、第二、第三の点は、日本社会に対しても有意義な還元を可能にするものと、応募者は考えた。とりわけ日本における児童手当の普遍化(2010年)とその挫折(2012年)についてジェンダーの視点からの分析が求められており、本研究はイギリスにおける普遍的現金給付要求の歴史を跡づけることで、間接的にこの課題に貢献しようと考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、1970年代英国女性解放運動における経済的自立要求の形成過程において「かき消された声」があったことを明らかにし、この忘れられた実践のなかに、人種と階級による制約を乗り越えようとする試み（のうちの一つ）があったことを跡づけることである。

第二の目的は、この忘れられた実践と議論の持つ今日的意味を探ることである。日本社会との関係では、子ども手当／児童手当をめぐる政治的混乱のなかで、普遍的現金給付の持つ意味やサービス給付／条件付き現金給付との関係を、ジェンダーの視点で評価し直すことは喫緊の課題であり、本研究はフェミニズム運動史研究の立場からそれに貢献するものである。

3. 研究の方法

当事者へのオーラルヒストリー調査とアーカイブワークによって明らかになる、忘れられ埋もれた史実を、フェミニスト経済学や経済思想史についての理論的研究にもとづいて分析する。

4. 研究成果

1970年代英国女性解放運動における経済的自立要求の形成過程において「かき消された声」があったことを明らかにし、この忘れられた実践のなかに、人種と階級による制約を乗り越えようとする試み（のうちの一つ）があったことを跡づけることができた。忘れられた歴史を明らかにしたこの成果は、国際学術誌の最優秀論文賞を受賞（The 2014 Basic Income Studies Best Essay Prize）したほか、イギリス、スペイン、スイス、韓国、台湾、日本で招待講演を行うこととなった。

日本社会との関係では、子ども手当／児童手当をめぐる政治的混乱のなかで、普遍的現金給付の持つ意味やサービス給付／条件付き現金給付との関係について、フェミニズム運動史研究の立場からジェンダーの視点で評価し直すことができた。

また、オーラルヒストリー調査によって明らかになった内容は、これまでのフェミニスト経済学の歴史を書き直す内容を含んでいることが分かってきた。本研究においても、労働者階級の女性解放運動とフェミニスト経済学との関係を視野に入れていたが、より直接的な連関と切断を中心に据えた研究の必要性が明らかとなった。その研究に本研究終了後ただちに着手しているところである。以下の発表論文等には、こうした本研究申請時には予期していなかった内容についての研究成果も含めている。

5. 主な発表論文等

（本研究遂行過程でのスピノフ的成果も含む）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

Toru Yamamori [2019] The Smithian ontology of ‘relative poverty’: revisiting the debate between Amartya Sen and Peter Townsend, *Journal of Economic Methodology*, 26:1, 70-80. 査読あり。

Doi: 10.1080/1350178X.2018.1561081

Toru Yamamori [2018] The Concept of Need in in Amartya Sen: Commentary to the expanded edition of *Collective Choice and Social Welfare*, *Ethics and Social Welfare*, 12:4, 387-392. 査読あり。

Doi: 10.1080/17496535.2018.1554877

Toru Yamamori [2017] The Concept of Need in Adam Smith, *Cambridge Journal of Economics*, 41(2), pp.327-347. 査読あり. Doi: 10.1093/cje/bew049

山森亮[2016]「ポスト構造主義 vs.社会的存在論? : フェミニスト経済学の哲学的基礎を巡って」『季刊経済理論』53(3), pp.36-46. 査読なし. Doi: 10.20667/peq.53.3_36

Toru Yamamori [2014] A Feminist Way to Unconditional Basic Income: Claimants Unions and Women's Liberation Movements in 1970s Britain, *Basic Income Studies*, 9(1-2), pp.1-24. 査読あり. Doi: 10.1515/bis-2014-0019

〔学会発表〕（計 13 件）

Toru Yamamori, “The evolutionary concept of need in economics”, 6 - 8 September 2018, 30th Annual Conference of the European Association for Evolutionary Political Economy, ISEM (School of Economics and Business), University of Nice Sophia Antipolis, Nice, France.

Toru Yamamori, “The concept of need in economics: from Smith to Sen”, 29-31 August 2018, the annual conference History of Economics Society, Balliol College, Oxford, UK.

Toru Yamamori, “Intersectionality of feminist articulation of basic income: in case of the British working class women's movement”, 25-27 September 2017, 17th International Congress of the Basic Income Earth Network, Lisbon School of Economics and Management, University of Lisbon, Lisbon, Portugal.

Toru Yamamori, “The Smithian ontology and epistemology of need in Sen's Capability approach: the Sen-Townsend debate reexamined” September 2016, the annual conference of the Human Development and Capability Association, Hitotsubashi University, Tokyo, Japan.

Toru Yamamori, “The Smithian ontology of ‘relative poverty’: revisiting the debate between Amartya Sen and Peter Townsend”, 29th August 2017, the 13th conference of the International Network for Economic Method, San Sebastian, Spain.

Toru Yamamori, “Feminism and Basic Income”, 18 March 2017, The first Asia-Pacific Conference on Basic Income, at National Chengchi University (NCCU),[招待講演(シックハウス症候群のためビデオおよびスカイプにて)]

山森亮,「ベーシックインカムを要求した女性解放運動から学ぶ」,日本財政学会第73回大会シンポジウム「貧困を考える」,2016年10月22日,京都産業大学.[招待講演]

Toru Yamamori, “Historiography of the basic income movements: What can we learn from it”, 7-9 July 2016, 16th International Congress of the Basic Income Earth Network, Sogang University, Seoul, South Korea. [招待講演]

Toru Yamamori, “Feminist Way to Citizen’s Income: Claimants Unions and Women’s Liberation Movements in Britain 1968-1987”, 17 June 2015, Gender Research Centre at University of Bristol, with Centre for East Asian Studies (University of Bristol) & FSSL Family and Parenting Research group (University of Bristol), Bristol, UK. [招待講演]

Toru Yamamori, “A Feminist Way to Basic Income: Claimants Unions and Women’s Liberation Movements in Britain 1968-1987”, 4 July 2014, Conference on ‘Situating Women’s Liberation: Historicising a Movement’, University of Portsmouth, Portsmouth, UK.

Toru Yamamori, “A Feminist Way to Basic Income: Claimants Unions and Women’s Liberation Movements in Britain 1968-1987”, 27-29 June 2014, 15th International Congress of the Basic Income Earth Network, McGill University, Montreal, Canada.

Toru Yamamori, “A Feminist Way to Unconditional Basic Income in 1970s Britain”, 14th April 2014, Departamento de Economía, The Universidad Pública de Navarra, Pamplona, Spain. [招待講演]

Toru Yamamori, “Voices, Visions and Vanacular Value”, Unterschätzte Gegenwart Bedingungsloses Grundeinkommen In Japan und in der Schweiz, 25 January 2014, Basel, Switzerland. [招待講演]

〔図書〕（計 4 件）

エノ・シュミット, 山森亮, 堅田香緒里, 山口純 [2018] 『お金のために働く必要がなくなったら、何をしますか?』光文社。（編集担当全体 pp.1-260, 執筆担当 pp.1-30, pp.69-pp.140, pp.247-253）

「女性たちのベーシック・インカム：福祉権フェミニズムの歴史と現在」落合恵美子・橘木俊詔編 『変革の鍵としてのジェンダー：歴史・政策・運動』ミンレルヴァ書房、2015年8月、第5章(pp.105-128).

Yannick Vanderborght and Toru Yamamori (eds.) [2014] *Basic Income in Japan: Prospects of a radical idea in a transforming welfare state*. Palgrave Macmillan. (編集担当全体 pp.1-261, 執筆担当 pp.1-11, pp.69-81)

レン・ドイヨル, イアン・ゴフ(馬嶋裕・山森亮監訳)[2014] 『必要の理論』勁草書房。（監訳担当全体 pp.i-iii, pp.1-222, 訳分担 pp.1-42）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

研究成果への賞（計 2 件）

The *Basic Income Studies* Best Essay Prize, 2014 [Yamamori 2014 に対して].

The EAEPE Kapp Prize (European Association for Evolutionary Political Economy), 2017
[Yamamori 2017 に対して]. (授賞式はシックハウス症候群のため欠席)

6 . 研究組織

(1)研究分担者：なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：ルーシー・デラップ

ローマ字氏名：Lucy Delap

研究協力者氏名：バーバラ・ジェイコブソン

ローマ字氏名：Barbara Jacobson

研究協力者氏名：ジュリア・メインウォリング

ローマ字氏名：Julia Mainwaring

研究協力者氏名：スー・ブルーレー

ローマ字氏名：Sue Bruley

研究協力者氏名：スーザン・カーライル

ローマ字氏名：Susan Carlyle

研究協力者氏名：エレン・マロス

ローマ字氏名：Ellen Malos

研究協力者氏名：ロジャー・クリップシャム

ローマ字氏名：Roger Clipsham

研究協力者氏名：トニー・ローソン

ローマ字氏名：Tony Lawson

研究協力者氏名：ジェイン・ダウニー

ローマ字氏名：Jane Downey

研究協力者氏名：スーザン・アーチャー

ローマ字氏名：Susan Archer

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。